

# 日本とベトナムとの移動初確認 ショウドウツバメ 関連記事 4面



日本で繁殖するショウドウツバメがベトナムまで移動していたことが、山階鳥研が行っている標識調査で分かった。日本

のショウドウツバメが国外で回収された記録はこれまでになく、今回が初記録となる。鳥類標識調査は山階鳥研が全国のバンダー（調査協力者）の協力を得ながら、40年近く行っていて、現在は環境省の委託を受けて実施している。今回の記録は、ベトナムから同省へ手紙が送られてきたことにより判明したものの。

ベトナムで発見されたショウドウツバメは、昨年7月19日に北海道小

樽市の繁殖地で、バンダーの河原孝行氏が足環を付けて放した雄の成鳥で、10月2日にホーチミンから北西へ約90キロ離れたタイニン郡カータウンの寺院で現地の人によつて発見された。また今年に入り、ベトナムのほぼ同じ場所であり、北海道石狩市生振で、バンダーの梅木賢俊氏が足環を付けた個体が発見された。これらの記録は、これまで明らかにされていないショウドウツバメの越冬地を解明する重要な手がかりになる。

ベトナムでは、寺院で販売されている野鳥を買い、野に放すと幸福がもたらされるといふ風習がある。今回の事例は発見者が寺院で買い求めた鳥に足環が付いていた。